

スタジアムは、生活の一部

都市のスポーツ

第一部 夢の器、欧州から 都市機能

洋の東西を問わず、いつの時代もスポーツは社会の発展と密接に関わってきた。特に大都市では、その存在価値は大きい。例えば広島。広島東洋カープとサンフレッチェ広島のプロをはじめ、バレーボールやハンドボールなど多くのトップチームを抱え、地域とスポーツが良好な関係を築いている。地域文化としてはもちろん、心の潤いや経済効果など、スポーツはまちづくりに重要な役割を果たしてきた。大都市とスポーツがさらに発展するには何が必要なのか。さまざまな競技が根付いた国内外の都市を巡り、現状と課題、未来へのヒントを探る。サッカーとスタジアムが生活の一部となっている欧州の事例から、地域とクラブの関係を考える。(日野淳太郎)

多機能複合型。サンフレッチェ広島県サッカー協会が掲げるスタジアムの理想像である。たまたま日本では何となく例がなく、具体的にイメージしづらいのが現状だ。多機能複合型とはどんなものなのか。欧州の4カ国10都市にある11のスタジアムを訪れた。

ショッピングモールやフィットネスクラブ、貸しオフィス、さらにはホテルに高齢者専用住宅……。あるいはピッチを見渡しながら会議やパーティーができるイベントスペース。全てスタジアムにある施設の実例である。サッカー先進国の欧州のスタジアムは、観戦をする、観戦するだけの空間ではない。都市機能としての役割を担い、ビジネスの道具でもあるのだ。

こうした流れが生まれたのは、1990年代に入ってからといわれている。一部のクラブがVIP向けのイベントスペースを設けて貸し出したところ、多額の収入確保に成功。折しも各国で、国際大会開催に伴うスタジアム新設、改修の費用捻出が課題となっていた。入場料や広告料以外に、スタジアムを使った収入源を探る考えが広まった。

欧州のスタジアムが以前から持つ役割は、「町の誇り。クラブの歴史を伝える器」である。年間8万人の見学者が訪れるアムステルダム・アレナ(オランダ)や、インクルンド・プレミアリーグのアーセナルの本拠地、エミレーツ・スタジアムには、クラブの歴史を伝える博物館が併設されている。

そこに近年、「都市機能の一部」「収入を生む器」という要素が加わったのである。ホテルや高齢者専用住宅、イベントスペースなど、それぞれの町に足りない機能をスタジアムが担う。同時にサッカーの試合以外にも利用価値が生まれ、テナント料や使用料という形で収入がもたらされる。

スタジアムが持つ三つの側面。まず、「都市機能の一部」としての役割が色濃くドイツのドレスデン(ドイツ)のアムステルダム・デュッセルドルフ(ドイツ)パーゼル(スイス)の四つのスタジアムを、6日付から紹介する。

「複合型」サッカー以外にも収益

ショッピングモール併設



アムステルダム(オランダ) アムステルダム・アレナ=収容5万3052人

【都市データ】	【クラブデータ】
人口 82万654人	名称 AFCアヤックス
(2012年5月現在)	所属リーグ エールディビジ1部
面積 219平方*	設立 1900年
	リーグ優勝 31回
	今季成績 2位 14勝9分け2敗

中心街から徒歩20分



ドレスデン(ドイツ) グリュックスガス・シュタディオン=収容3万2066人

【都市データ】	【クラブデータ】
人口 53万5910人	名称 ディナモ・ドレスデン
(2012年10月現在)	所属リーグ ブンデスリーガ2部
面積 328平方*	設立 1898年
	リーグ優勝 8回(旧東ドイツ1部)
	今季成績 15位 5勝9分け10敗

ホテル一体型



デュッセルドルフ(ドイツ) エスプリ・アレナ=収容5万1500人

【都市データ】	【クラブデータ】
人口 59万2393人	名称 フォルトゥナ・デュッセルドルフ
(2011年12月現在)	所属リーグ ブンデスリーガ1部
面積 217平方*	設立 1895年
	リーグ優勝 なし
	今季成績 12位 7勝7分け10敗

※今季成績は日本時間4日現在

バーゼル(スイス) ザンクト・ヤコブ・パルク=収容3万8512人



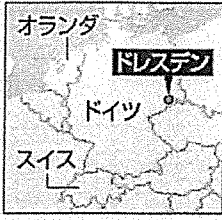
【都市データ】	【クラブデータ】
人口 17万635人	名称 FCバーゼル
(2012年2月現在)	所属リーグ スイス・スーパーリーグ
面積 24平方*	設立 1893年
	リーグ優勝 15回
	今季成績 2位 12勝7分け3敗

スタンド裏は高齢者専用住宅

都市スポーツ

第一部 夢の器 欧州から 都市機能

①



平日の屋下がり、スタンドを見渡せる部屋で、料理教室が開かれていた。キッチンがあり調味料や食器が並ぶ。スタジアムらしからぬ空間だ。企画する「ラウンジ・クッキング社」の担当者は「普通の教室とは違う雰囲気だ。人が高い。週に4、5回は開く」と説明する。

会議や結婚式もドイツ東部のドレスデンの中心部から徒歩20分。2部リーグのディナモ・ドレスデンの本拠地で、エネルギー会社の名を冠したグリ

ドレスデン(ドイツ)

グリュクスガス・シュタディオン

ユックスガス・シュタディオンは、市内有数のイベント会場でもある。大小の部屋は企業の会議や商談、結婚式や誕生会、課外授業などに使われる。ピッチはコンサートなど野外イベントの会場となり、約20日の試合日以外の稼働日数は年間150〜200日を数える。立地の良さだけが人気の理由ではない。運営を任されるシュタ

収容人数	3万2066人
開業	1923年6月
改修	2009年9月
改築費	約5000万円
平均観客数	約2万3396人 (5日現在)

試合以外の利用を開拓

イオン・ドレスデン社がスタジアムは数度の千万円(約6億8千万)のうち、70万円(約800万)の改修費を調達。500万円の財政支援を受け、シュタディオンは「サッカー以外の年、陸上トラック併設型から球技専用に生まれ変わった。その際、年間運営費300万円の削減に税金を自らイベントを企画し、運営会社は銀行から5(約3億6500万円)使えば、市民から反対

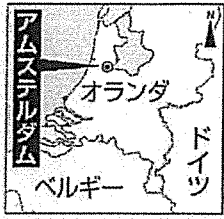


「誰もが使える」催しの場

スタンドの一角にあるラウンジ。料理教室にも使われる。

運動が起きるかもしれない。それ以外の意味を、スタジアムに与えなければいけないかった。キッチンのほか、20人が利用できる18の個室、それぞれ150席あるラウンジを三つ、さらに最大2千人収容できる大ホールを造った。地域に不足していたイベントスペースを補完するためだった。

現在、スタンドの一角ではレストランの開店準備が進む。試合日はサポーター、それ以外は住民の憩いの場となる。ベント氏は強調する。「ビッグクラブなら自前でスタジアムを建設できるが、ここはそうはいかない。市民の理解が不可欠であり、『誰もが使える施設ですよ』と言える環境づくりを怠るわけにはいかない」(日野淳太郎、写真も)



92年の五輪招致を目標に始まった建設は、アムステルダム中心部から6キロ離れ、空き地の目立つ南東部地区の再開発の目玉事業でもあった。土地を持つ市が主導し、新たな本拠

1996年8月、従来の概念を一変させるスタジアムがオランダの首都に誕生した。ショッピングセンターを併設した画期的な器。遊休地を整備して建設されたアムステルダム・アレナ(AA)は、欧州初の多機能複合型スタジアムである。

第一部 夢の器 欧州から 都市機能

都市のスポーツ

アムステルダム(オランダ) アムステルダム・アレナ

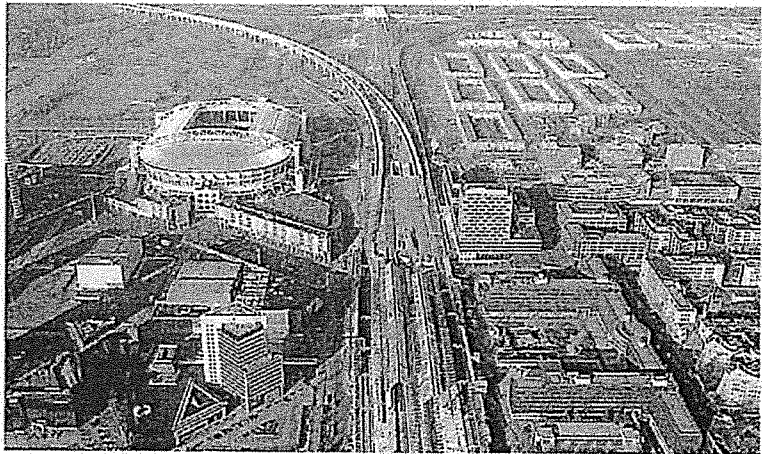
欧州初の多機能複合型

目的は地域再開発の起爆剤となること。そのためにはスタジアム自体に、試合日以外に、天候に左右されずに、

地下には2千台収容の駐車場を完備。屋根の融雪などを充てた。かす。

地を求めていたサッカーの強豪として知られるアヤックスが加わった。市が48%、クラブが13%、銀行やビール会社など地元の民間企業が39%出資して第三セクター、AA社を設立。1億4千万円(約170億円)の建設費は、出資金と銀行から

収容	5万3052人
開場	1996年8月
建設費	約1億4000万円
本拠クラブ	AFCアヤックス
1試合平均観客数	4万9974人(6日現在)



人を集める必要があった。「前例がなく、新しいコンセプトが必要だった。単なるスポーツ施設からの脱却を議論した結果が、イベン

5年で黒字転換当初こそ利用価値が

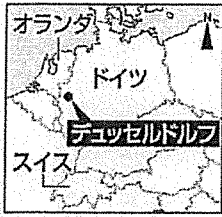
地域再開発 活性化図る

空き地が目立ったアムステルダム市南東部地区の発展を促したアムステルダム・アレナ(左奥)

上の店舗が軒を連ねる一大商圈となった。試合観戦やイベント参加などでスタジアムを訪れた人は、開業から昨年夏までの16年間で延べ2700万人を超えた。見学ツアーだけでも延べ120万人。AA社は5年目から黒字となり、いまでは年間3500万円(約43億円)前後の売り上げを誇る。

「新スタジアムが客を呼べるのは最初の数年だけ。どんな付加価値をつけるかがポイントになる。そして町の名所にもなった」とピームステルプール氏。多機能複合型、さらに官民が協力するPPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)の成功例として、世界各地から視察客を絶たない。

(日野淳太郎)



ドイツ西部の経済都市、デュッセルドルフ中心部から電車で15分。エスプリ・アレナは国際空港から約30分、国内最大級のメッセ会場に隣接する。その立地条件を最大限に生かし、ホテルと事務所スペースを併設しているのが特徴だ。

メッセ会場は10万人以上の収容規模を誇り、世界各国の企業や団体が見本市を開く。空港の年間利用者は約2千万人。近くにホテルは少なく、宿泊施設の拡充が求められていた。同地区にあった地

都市とスポーツ
第一部 夢の器 欧州から 都市機能

③

デュッセルドルフ(ドイツ)
エスプリ・アレナ

元のサッカークラブ、フォルトゥナ・デュッセルドルフの本拠地が老朽化し新築の話が浮上。両者を一体化して進めることになった。

【スタジアムデータ】	
収容人数	5万1500人
開場	2004年9月
建設費	約2億1800万円
本拠クラブ	フォルトゥナ・デュッセルドルフ
1試合平均観客数	4万3668人 (7日現在)

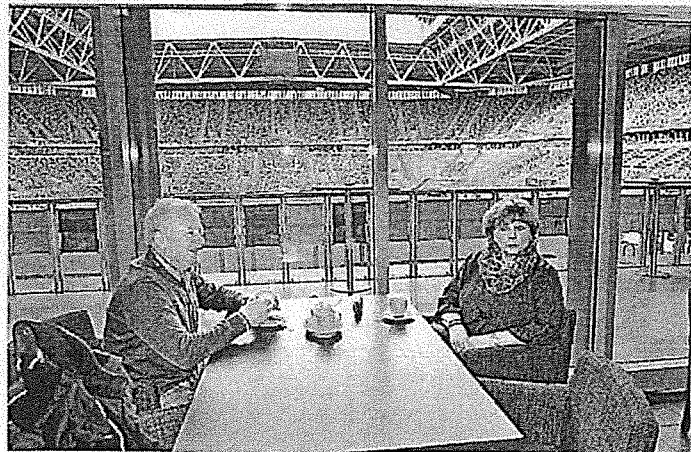
クラブ資本なし
特徴的なのは、運営するデュッセルドルフ・コングレス(DC)社は市とメッセ運営会社の出資会社で、ク

ない用途と収入源を確保しようと考えた。DC社のライナー・シユラー氏は明かす。誤算もあった。当初はボウリング場など娯楽施設を造ったが業務

空港近くホテルを併設

クラブと資本関係がない委託先が見つからず、ここで計画が持ち上ることが2000年ごろ、クラブは4部リーグ(現1部)。「提携相手として心もとない。サッカーに依存し

を強いられた」と反省にあるのは面白いが、それだけでは経営は成り立たない。試合を全域に展開するチューリップ・イン。マネジヤのケビン・リウォ



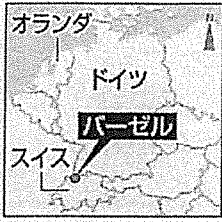
立地生かし貸事務所も

市支援が必須
貸しオフィスにはクラブ事務所やメッセのイベント会社、警備会社など15社が入る。テナント料はホテルと合わせ、年間100万円(約1億2千万円)以上という。シーズンオフにはコンサートなどピッチで開催するイベント使用料も入るが、年間6億円程度と見られる維持・管理費は市の支援なしには賄えない現実もある。

シユラー氏は「スタジアムがあることで有名歌手がコンサートに来るし、ホテルなどの機能もある。当初は税金の投入に批判もあったが、今は存在価値があると受け入れられている」と断言する。

(日野淳太郎 写真も)

スタジアムが見えるホテルのレストランでくつろぐ宿泊客



多機能複合型が主流になりつつある欧州の中でも、異彩を放つスタジアムである。スイス第3の都市、バーゼルにあるサンクト・ヤコブ・パルク。市中心部に位置し、高齢者専用住宅を併設する。スイスの強豪クラブ、FCバーゼルの旧本拠地の建て替えが決まった1998年。付加機能を持たせなければ経営は成り立たない、と考えた運営会社がテナントを募った。介護需要を満たす名乗りを上げたのは

第一部 夢の器く欧州から 都市機能

都市スポーツ

④

バーゼル(スイス)

ザンクト・ヤコブ・パルク

介護事業会社。住宅街にあるつえ、個室を備えた介護付き高齢者専用住宅が市内に少なかつたため、需要があると判断したという。107部屋は常にいっぱい。希望者も後を絶たない。地下には市内で最大級となる、約50店舗の

高齢者住宅がテナント

ショッピングセンター(SC)も整備した。建設費は総額2億5千万スイスフラン(約247億円)。個人投資家や銀行などの地元企業が運営する運営会社「シユタデオ・ザンクト・ヤコブ・パルク」が負担した。

収容	3万8512人
開場	2001年3月
建設費	約2億5000万スイスフラン
本拠クラブ	FCバーゼル
1試合平均観客数	2万8418人(8日現在)

同社は年間収入を公表していないが、収入の内訳はスタジアム



使用料や広告料などになったりと相乗効果が、バスが乗り放題で、1枚当たり1・3スイスフラン(約129円)が運営会社から市交通局に支払われる。今季の1試合平均の観客数が2万8418人なので、1試合ごとに約3万7千スイスフラン(約365万円)が市に入る

SCも整備 ファン開拓

ザンクト・ヤコブ・パルクの正面。併設する高齢者専用住宅の下にスタジアムへのゲートがある

計算だ。交通局のクリス・ングル氏は「公共交通機関の利用者の開拓に役立つし、何より安定した収入を得られるのが最大の利点」。住宅街にあり、十分な駐車場を確保できない運営会社との利害も一致し、共存関係を強めている。FCバーゼルは、今季の観客数が1試合平均でリーグトップ。試合開催日、スタジアム周辺は多くの人でにぎわい、高齢者専用住宅の入所者も訪問した家族とともに観戦する光景が見られる。

4月中旬から、第2部「夢の器く欧州から収入源」を連載します

日野淳太郎(写真も) おわり

スタジアムが、お金を生む

都市スポーツ
第2部 夢の器〜欧州から収入源

スタジアムの運営には多額の費用がかかる。しかし、サッカーなど競技の入場料や広告料収入だけでは賄いきれない。ならば、スタジアムそのものをお金を生み出すツールにしよう。1990年代に入り、欧州で多機能複合型が増え始めたのは、単純な理由からだった。

日本ではなじみの薄い「スタジアムビジネス」。欧州では取り組みに温度差があるとはいえ、数億円規模の収入を挙げる。スタジアムは町づくりに欠かせないうえに、大事な収入源にもなる。こうしたビジネスを可能としているのが、スタジアム運営を専門とする会社の存在である。

ドイツ、オランダ、スイス、英国の4カ国で訪れた11のスタジアムで、行政が運営するケースは一つもない。クラブの単独運営も二つしかなかった。運営会社はクラブや行政、民間企業、個人投資家などをつくり、出資元や比率はさまざま。ただ社員には、マーケティングやイベント企画などの専門家を集めている。

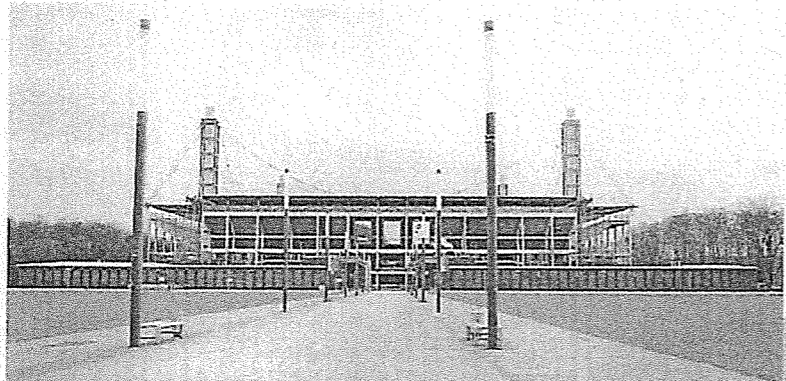
地域にどんな施設が必要か、何があれば多様な利用者を呼び込めるか。運営会社は計画段階からそうした視点でスタジアム像を描き、具体化する。完成後も利用者のニーズを調査し、必要な変化に柔軟に対応。取材時に改築、改修中のスタジアムは五つもあった。

運営会社は横のつながりも強い。ドイツではクラブの垣根を越えた勉強会を定期的に開き、新たなビジネス手法を研究する。オランダのアムステルダム・アレナを運営するAA社は、2014年ワールドカップを開催するフランスをはじめ、20カ国以上でノウハウを提供。コンサルタント料も大きな収入を生んでいる。

年間3500万円(約42億円)前後の収入を誇るAA社の法務・財務責任者のジェム・ヒムステルフェール氏は言う。「収入源の多角化は時代の流れ。スタジアムはサッカーをするだけの場所から、お金を稼ぐ器になった」

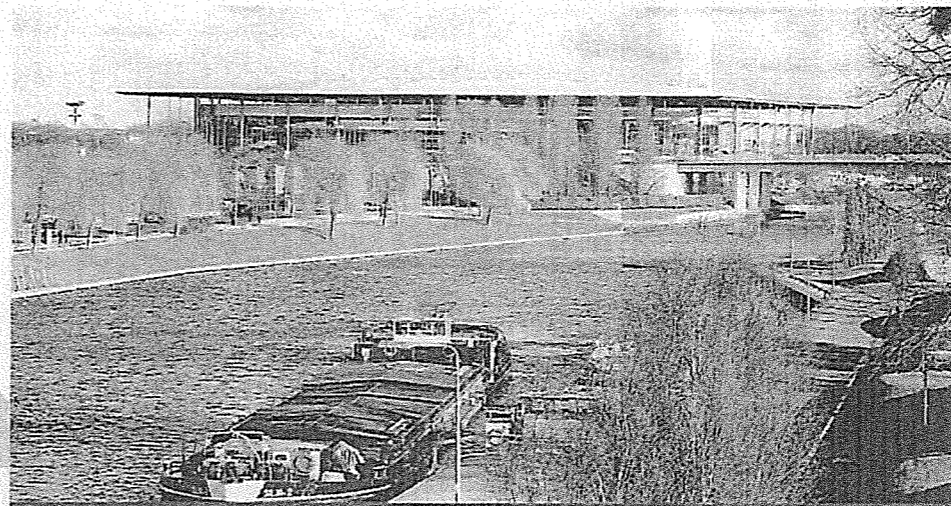
大物アーテュストのコンサート、アイスホッケーなど他競技の開催、常に予約で埋まる人気フアンジ。併設施設やイベント会場など「都市機能」としての役割が強いスタジアムを取り上げた第1部に続き、第2部では「収入源」をテーマに、特徴的なビジネスを展開するウォルフスブルク、ドレスデン、ケルン(以上ドイツ)、ベルン(スイス)の4スタジアムを10日付から紹介する。(日野澤太郎)

コンサート開催・人気ラウンジ… 運営会社 ビジネスを模索



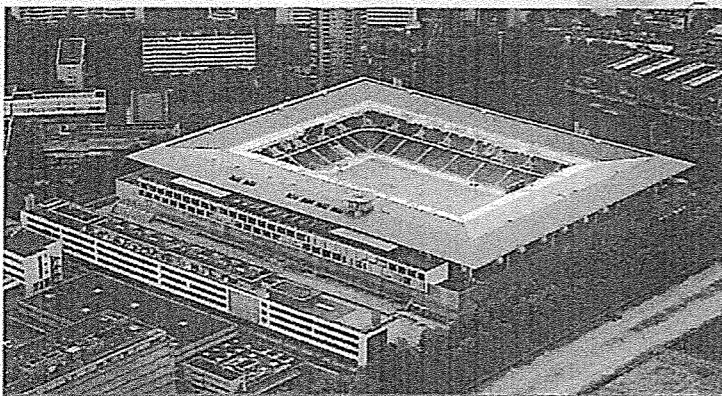
ケルン(ドイツ) ラインエネルギー・シュタディオン=収容5万374人

【都市データ】	【クラブデータ】
人 □ 102万1258人 (2012年6月現在)	名称 1.FCケルン
面積 405平方*	所属リーグ ブンデスリーガ2部
	設立 1948年
	リーグ優勝 2回
	今季成績 4位 12勝10分け6敗



ウォルフスブルク(ドイツ) フォルクスワーゲン・アレナ=収容3万122人

【都市データ】	【クラブデータ】
人 □ 12万490人 (2009年6月現在)	名称 VfLウォルフスブルク
面積 204平方*	所属リーグ ブンデスリーガ1部
	設立 1945年
	リーグ優勝 1回
	今季成績 12位 8勝9分け11敗



ベルン(スイス) スタッド・ドゥ・スイス=収容3万2000人

【都市データ】	【クラブデータ】
人 □ 13万人 (2010年12月現在)	名称 BSCヤングボーイズ
面積 52平方*	所属リーグ スイス・スーパーリーグ
	設立 1898年
	リーグ優勝 11回
	今季成績 6位 8勝8分け10敗



ドレスデン(ドイツ) グリュックスガス・シュタディオン=収容3万2066人

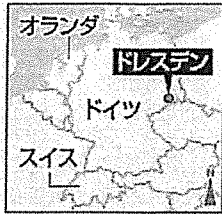
【都市データ】	【クラブデータ】
人 □ 53万5910人 (2012年10月現在)	名称 ディナモ・ドレスデン
面積 328平方*	所属リーグ ブンデスリーガ2部
	設立 1898年
	リーグ優勝 8回(旧東ドイツ1部)
	今季成績 15位 6勝9分け13敗



今季成績は日本時間3日現在

都市スポーツ

第2部 夢の器 欧州から 収入源



「スタジアムにあるもの全て、例えば白い壁でも、どうお金に換えようかと考える」。ドイツ東部のドレスデンにあるグリュックスガス・シュタディオンの運営するシュタディオ・ドレスデン社の統括責任者ローランド・ベント氏は、切実な思いを明かす。

会議やキャンプ

今回訪れた4カ国11カ所のうち、スタジアムビジネスに最も熱心なのがドレスデンだった。巨額の資金を提供してくれる大スポンサーを持たないクラブの厳しい現実がある。

ドレスデン(ドイツ) グリュックスガス・シュタディオ

る。

る。

町のイベント会場「確立

企業の会議や料理教室などラウンジを利用した催しのほか、サッカーのオフシーズンに

ほかにも使えるものを使う。例えばラウンジの壁に広告スペースを設け、年間2万時、約250万円)で貸し出

している。その積み重ねがイベント収入と合

わけて年間130万時(約1億円)と、年間4万時の個室18とレストラン風スペースなど

計1300席あるラウ

収入の柱は主に①2部リーグに所属するティナモ・ドレスデンからのスタジアム使用料②ラウンジ契約料③イベント使用料。①と②は安定収入の一方で大幅な増収は見込めないため、同社はイベントの誘致を重視する。有名歌手のコンサートなど大型イベントは限られる中、ベント氏は「多食べるしかない」と、多様な利用者の掘り起こしに力を入れ

収容人数	3万2066人
開場	1923年6月
改修	2009年9月
改修費	約5000万ユーロ
本拠地	クラブ ディナモ・ドレスデン
1試合平均観客数	2万4074人 (10日現在)



多様な利用者 発掘に力

アウトドア用品メーカーが主催し、キャンプ場となったグラウンド

ンシ契約料の計220万時(約2億8千万円)が加わる。

借金返済が重荷

一方でスタジアム運営費は年間300万時(約3億7千万円)。さらに2009年に銀行から調達した改修費用を、30年かけて毎年200万時(約2億5千万円)返済しないとけない。70万時(約8700万円)の不足が生じ、市からの財政支援で補う。だからこそ、収入源確保への危機感が強い。

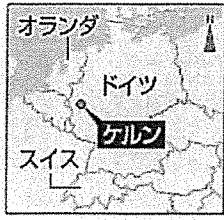
ベント氏は稼働率の1層の向上を課題に挙げる。「地域の公共財として誰もが使える環境づくりを続けることが、ビジネスを成立させる。それが生きる道」。旧東ドイツの地方都市に構えるスタジアムの挑戦は続く。

(日野淳太郎)

都市スポーツ

第2部 夢の器 欧州から 収入源

④



現在2部リーグで、かつて奥寺康彦、元広島島の榎野智章（浦和）も所属した古豪ケルンの本拠地として、

大聖堂で知られるドイツ有数の文化都市ケルンは、産業都市の一面も持つ。多くの企業が本社や支社を構え、見本市や展示会など催しも盛んだ。人口100万人強の国内第4の都市で、人気歌手のコンサートも多い。そうした土壌の上に、ラインエネルギー・シュタディオン（ケルン）の経営は成り立つ。

ケルン(ドイツ)

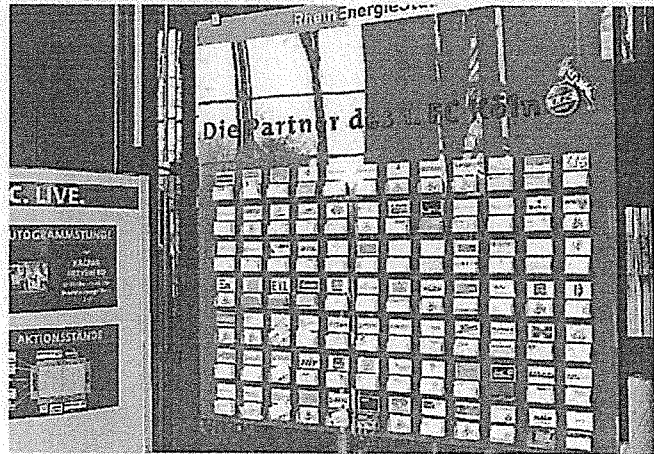
ラインエネルギー・シュタディオン

見本市やライブで盛況

1923年に建設された。2006年ワールドカップ開催を受けた2度目の改修工事に合わせて、04年に多機能型へ転換した。運営するケルン・スポーツ施設社のハンス・リュッテン社長は「どう使いたいか、何を造れば利益を得られるか。市の特性を踏まえた結果がイベント施設だった」。開催された。会議とスタジアム見

収容人数	5万374人
開場	1923年9月
改修	2004年
改修費	約1億2000万円
本拠地	1. FCケルン
1試合平均観客数	3万9164人 (12日現在)

クラブの歴史を伝える学を合わせたツアーで最も大事なことは、運営に直接関与せず、探る「ミュンヘンとフランクフルト」や、約80のスポーツサークルを併設する企業同士が自由に交流できるような、名刺が入ったボードを設置するが、複合型ではない。行政では限界あり、プロの組織の負担は2500万坪（約32億円）で、残りの個室を含む計2500坪を備えたラウンジだ企画も特徴的だ。同社はドイツでは珍しい市の100%出資。返済分も合わせ約6500万坪（約8億4



「産業都市」特性生かす

スポンサー企業同士が交流できるよう設置された名刺ボード
 千万円)の年間運営費は全て自力で賄う。
 経済効果11億円

サッカー以外のイベントは年間250〜300件あり、収入は200万坪(約2億6千万円)を超える。額は非公表だがラウンジの年間契約料やスポンサー料収入もあり、リュッテン社長は「赤字にはならない」と言う。

地元の民間調査会社の試算では、サッカー以外の催しによる経済効果は年間900万坪(約11億円)という。スタジアムは大聖堂とともに、市の貴重な経済資源となっている。(日野淳太郎、写真も)

〃おわり

5月中旬から第3部「夢の器 欧州から街の誇り」を連載します

クラブ愛にじむ「ホーム」

第3部 夢の器、欧州から 街の誇り

「スタジアムに付加価値をつけることは大事だが、最も重要なのは、街にクラブが存在することだ」。多機能複合型スタジアムの現状を取材した4カ国11カ所で、多くの関係者が口にした。

サッカー先進国の欧州では、地元のクラブが地域に深く根付き、スタジアムも生活の一部となっている。その器に「都市機能」や「収入源」としての役割は欠かせない。ただし、根源的な存在意識は「街の誇りである地元クラブのために」である。

スタジアムの運営形態などさまざまだが、賞られる思いは共通している。「われらがクラブに最大限のサポートを、敵には最大限のプレッシャーを」。スタンドや施設内はクラブカラーやロゴで彩られ、ファンショップも併設。どのクラブのホームかは、一目で分かる。

選手のロッカールームを見ると分かりやすい。ホーム側は広々としたスペースに、革張りのソファや高価な治療機器、トレーニング室など、充実している。対照的にアウェイ側は、簡素な造りで最低限の設備しかない。

さまざまな所にも、心憎い演出がある。ケルン(ドイツ)の本拠地ラインエネルギー・シュタディオンは、ピッチに向かう通路に「U」のドアが並ぶ。ケルンの選手が通る側は、チームマスコットのヤギが正面を向いた写真が貼り付けてある。一方、対戦相手の通路ではヤギのお尻の写真が迎える。ジョーク交じりに「アウェイ感」を醸し出している。

クラブの歴史を伝える博物館があるのも特徴的だ。アーセナル(イングランド)の本拠地エミレーツ・スタジアムをはじめ、訪れたらスタジアムが博物館を併設していた。規模の違いはあるが、歴代のユニホームやトロフィーなど、貴重な資料が並ぶ。

PSVアイントホーフェン(オランダ)の本拠地フィリップス・シュタディオンは、スタジアム自体が博物館となっている。通路やラウンジに、歴代の所属選手や試合の写真が展示。サポーターはクラブの軌跡や栄光に浸ることができる。

スタジアムの見学ツアーも人気が高い。毎年、数万人の観光客が訪れるなど、スタジアムはクラブとともに、地元の人々として位置づけられている。

「街の誇り、クラブの歴史を伝える器」。そんな発想が色濃く反映された、アーセナル、チェルシーのロンドンの2チームとPSVアイントホーフェン、レーバークーゼン(ドイツ)の各ホームスタジアムを、9日付から紹介する。(白野淳太郎)

歴史伝える展示も 地元のシンボリック的役割



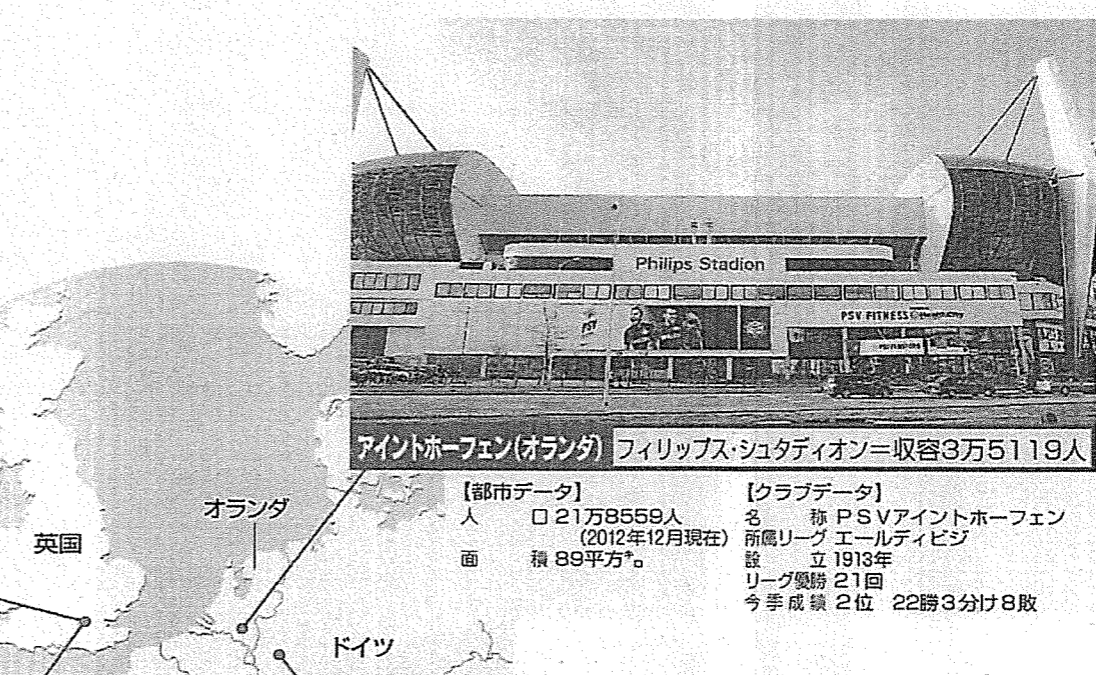
ロンドン(英国) エミレーツ・スタジアム=収容6万432人

【都市データ】	【クラブデータ】
人 □ 817万3194人 (2011年3月現在)	名 称 アーセナル
面 積 1570平方*。	所属リーグ イングランド・プレミアリーグ
	設 立 1886年
	リーグ優勝 13回
	今季成績 4位 19勝10分け7敗

ロンドン(英国) スタンフォード・ブリッジ=収容4万2522人



【都市データ】
人 □ 817万3194人 (2011年3月現在)
面 積 1570平方*。
【クラブデータ】
名 称 チェルシー
所属リーグ イングランド・プレミアリーグ
設 立 1905年
リーグ優勝 4回
今季成績 3位 20勝8分け7敗



アイントホーフェン(オランダ) フィリップス・シュタディオン=収容3万5119人

【都市データ】	【クラブデータ】
人 □ 21万8559人 (2012年12月現在)	名 称 PSVアイントホーフェン
面 積 89平方*。	所属リーグ エールディビジ
	設 立 1913年
	リーグ優勝 21回
	今季成績 2位 22勝3分け8敗

レーバークーゼン(ドイツ) バイ・アレナ=収容3万210人

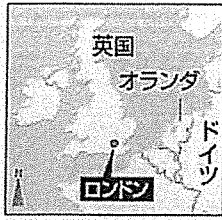


【都市データ】	【クラブデータ】
人 □ 16万1272人 (2012年6月現在)	名 称 バイエル・レーバークーゼン
面 積 79平方*。	所属リーグ ブンデスリーガ1部
	設 立 1904年
	リーグ優勝 なし
	今季成績 3位 17勝8分け7敗

*成績は7日現在

都市スポーツ

第3部 夢の器、欧州から街の誇り



巨大な器に近づくと、往年の名選手たちが描かれた壁画が目飛び込んでくる。その下には、チーム名の由来となった大砲の模様が。ロンドン北部の住宅街にそびえるエミレーツ・スタジアムは、イングランド・プレミアリーグの強豪アーセナルの本拠地であると強烈に主張している。

2006年、1.6

ロンドン(英国) エミレーツ・スタジアム

①

容量	6万432人
開場	2006年7月
建設費	約4億3000万ポンド (約660億円)
本拠クラブ	アーセナル
1試合平均観客数	6万80人(8日現在)

アーセナルの127年刻む

はできて7年にすぎないが、1886年に兵器工場の労働者が結成して誕生したクラブの歴史を十分に伝える。まず外壁には、デニス・ベルカンやティエリ・アンリら、栄光を彩った30選手の名前と成績、等身大のプレー写真が刻まれている。

127年の歴史を最も実感できるのが、道路を隔てて向かいに立つ博物館だ。歴代のユニホームや入場券、選手の手記や契約書など、数百年の貴重な史料を展

迎えられる。日本でもなじみの深いアーセン・ベンゲル現監督(元名古屋監督)をはじめ、歴代監督の彫像や大時計、クラブの広報拒

示。試合や選手インタビューの映像も流され、スタジアムと博物館はクラブが所有、運営あり、試合日以外にも、

「先人たちが築いた伝統を後世に残す責任がある。スタジアムは最適なツールで、クラブの歴史を伝えることができる。先人たちの偉業を語り、家族との話も弾む」と話す。

「過去の歴史を伝える器に、訪れる人は絶えない。博物館を含めたスタジアム見学ツアーは入場料17・5ポンド(約2700円)と安くはないが、年間12万人が訪れる。プレミアリーグによると全観客の5%、約80万人が海外からの調査結果があり、人気クラブのアーセナルも多くの外国人を引きつけている。ツアーは英語のほか、日本語など計9カ国語の音声ガイドサービスがある。ツアー参加者の半数は外国人という。

広報担当者は「クラブが世界的なブランド力を持つことが、スタジアムの魅力も高め、地域の誇りにもなる」と強調。スタジアムは立派な観光資源になっている。

(日野淳太郎、写真も)



歴代のユニホームなど貴重な史料が展示されている博物館

隣接の博物館も人気

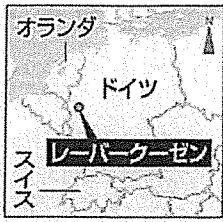
ができるのは楽しい、家族との話も弾む」と話す。

年間12万人来訪

歴史を伝える器に、訪れる人は絶えない。博物館を含めたスタジアム見学ツアーは入場料17・5ポンド(約2700円)と安くはないが、年間12万人が訪れる。プレミアリーグによると全観客の5%、約80万人が海外からの調査結果があり、人気クラブのアーセナルも多くの外国人を引きつけている。ツアーは英語のほか、日本語など計9カ国語の音声ガイドサービスがある。ツアー参加者の半数は外国人という。

広報担当者は「クラブが世界的なブランド力を持つことが、スタジアムの魅力も高め、地域の誇りにもなる」と強調。スタジアムは立派な観光資源になっている。

(日野淳太郎、写真も)



ドイツ西部にあるレーバークーゼンは人口約16万人の小さな街。名所も観光地も少ない。世界的な観光都市ケルン、欧州有数の経済都市デュッセルドルフに挟まれ、目立たない存在である。しかし、市民は胸を張って言う。「ここには伝統あるクラブと、先進的なスタジアムがある」

第3部 夢の街、欧州から街の誇り

都市スポーツ

②

レーバークーゼン(ドイツ) バイ・アレナ

子会社だ。クラブの広報部長のメイノルフ・スプリング氏は「ここはバイエルの街であり、象徴としてクラブが存在してきた歴史がある」と話す。

医療センターも

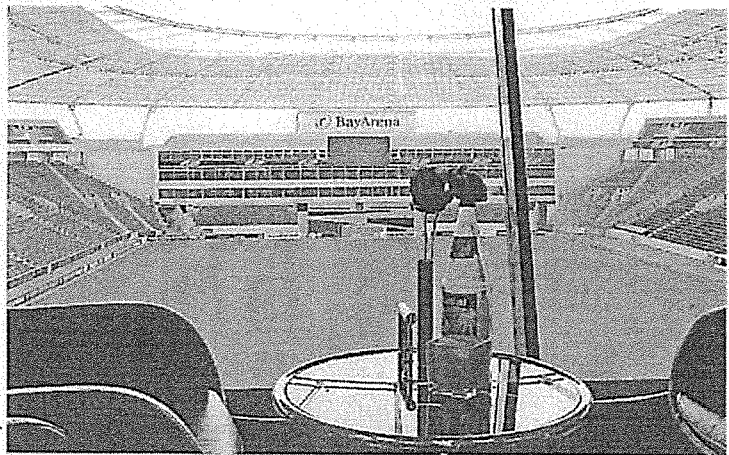
56年に誕生した現スタジアムの建設、改修費は全て、バイエルが負担してきた。86年から10年以上かけて大改修。「サッカーに興味

【スタジアムデータ】	3万210人	(約91億円)
収容人数	1956年4月	
改修費	2009年3月	
改修費	約7000万ユーロ	
改修費	クラブ	バイエル・レーバークーゼン
改修費	1試合	平均観客数
改修費		2万8067人(9日現在)

先進的「ブンデスの宝石」

のない人も含め、全て。2009年に完了した2度目の改修工事ではラウンジも一新し、席数を2千以上と国内有数の規模とした。国内有数の規模とした。また、スタジアム内

スタンド全体を屋根で覆い、カクテル光線が透けて見える半透明にするなど、当時は珍しい造りで「フンデスの宝石」と称された。99年にはドイツのスタジアムでは

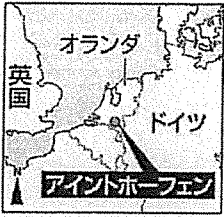


市民16万人 高い動員力

併設されたホテルからは、街の象徴であるスタジアムを見渡せる

エルの財力のおかげだが、スタジアムが街で最大の集客施設となっている。スプリング氏は「人口やスタジアムの収容人数でケルンやデュッセルドルフには及ばなくても、常に新しい発想で素晴らしい器は造れる。大事なのは大きさではなく雰囲気だ。今は海外からも視察が来る」と自負をのぞかせる。

収容人員が約3万人となった、最近4年の1試合平均観客数は2万8千人強。単純計算でレーバークーゼン市民の6人に1人が観戦したことになる。これは1試合平均8万人と、国内最大の動員力を誇るドルトムント(人口約58万人)の7人に1人を上回る。バイ・アレナは小都市の誇りである。(日野淳太郎、写真も)



「博物館」の役割
コンセプトは一貫している。「クラブのアイデンティティを体現する器」。特徴的な

オランダが誇る大手電機メーカー、フィリップスの発祥地であるアイントホーフェン。その中心地に立つフィリップス・シュタディオンは1913年に開場。今年でちょうど100周年を迎えた。アヤックス、フェイエノールトと並ぶオランダ3大クラブの一つ、PSVアイントホーフェンとともにスタジアムは発展を続けてきた。

第3部 夢の器〜欧州から 街の語り

都市のスポーツ

③

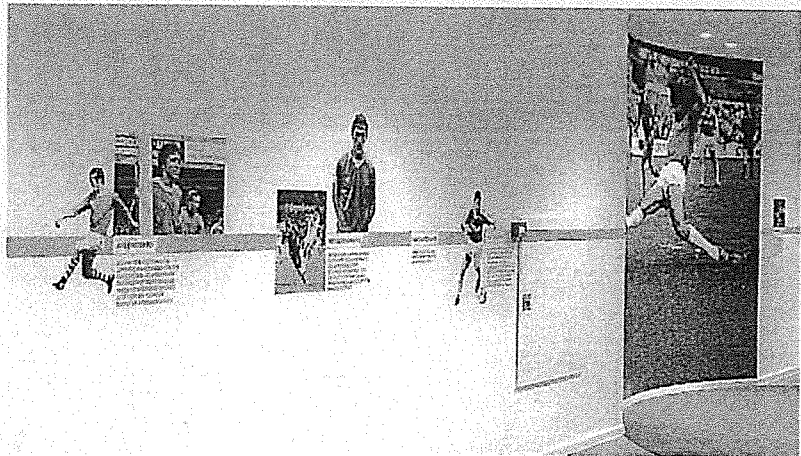
アイントホーフェン(オランダ) フィリップス・シュタディオン

建物、丸ごとクラブ色

のは、スタジアムが丸ごと博物館の役割を果たしていることだ。建物内に入ると、シーズンごとの成績や主な出来事、写真とともに時系列で壁に刻まれている。各国代表入りを果たした歴代所属選手の顔写真も並び、彩りを添える。この「壁年表」は定期的な書き換えられていく。約60あるラウンジには、ロベルス氏は「毎回新しい発見があり、クラブの歴史を楽しみながら「ロイヤの部屋」「ロナウドの部屋」など、一と自慢する。

収容人数	3万5119人
開場年	1913年
改修年	2002年
改修費	1億7千万円
本拠地	PSVアイントホーフェン
1試合平均観客数	3万3082人 (10日現在)

時代を築いた名選手の立地にも強いアイデンティティがうかがえる。88年から大規模な改修工事を重ねてきた改修費は1億7千万円(約220億円)。地が存在し続けること



スタジアム内の壁に刻み込まれた年表

発祥の地離れず100周年

学からだ。

施設所有し管理

こうすることが可能なのは、クラブがスタジアムを所有、管理しているから。フィリップス社の従業員がクラブとして始まったPSVは80年に独立し、施設を買い取った。長年のライバルであるアヤックスの本拠地で、市が中心となりクラブや民間企業も出資したアムステルダム・アレナとは対照的だ。

ロベルス氏は「全て自己決定できるからこそ、ここまでクラブ色を前面に出せる。アヤックスにはとうていできないことだ」と胸を張る。リーグ優勝回数PSV21に対し、アヤックスは32。ピッチ上のライバル物語には、スタジアムも欠かせない要素となっている。(日野淳太郎 写真も)

